

＜今日の説教のポイント マルコによる福音書 16 章 1～8 節＞

① 神はどのようなお方でしょうか？

「神」と言っても、一般には漠然としたイメージしかないのではないのでしょうか。そして、神と何らかの関りを持つとすれば、その神に対してわたしたちが何をするか、ということにまず思いが向くと思います。たとえば、何らかの儀式や供え物をして神をなだめる、あるいは善行をして神の報いを期待したりする、といったことです。

しかし、聖書の示す神は、そのような「神」とは異なる方です。イザヤ書 43 : 1 にはこうあります。「ヤコブよ、あなたを創造された主は…今、こう言われる…あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」ここでは、初めに語りかけるのは、わたしたちではなく神です。わたしたちが神を求めるよりも先に、神がわたしたちを顧みてくださる。いや、わたしたちは神を忘れることがあるのに、神はわたしたちを忘れず、ご自身から愛をもって名前を呼んでくださる—そのような方こそ、聖書の神なのです。

② 主イエスの弟子ペトロ

そして今日は、この「名を呼ぶ」ということに関連して、主弟子のペトロに注目したいと思います。マルコによる福音書 16 章は、主イエスの復活の物語です。ここには、ペトロ自身は登場しません。むしろ、彼は、主イエスが十字架につけられるために捕えられたとき、怖くなって他の弟子と同じように逃げ出してしまい、ずっと身を隠したままだったのです。

ただ、女性の弟子たちが、せめて主イエスの遺体に香油を塗ろうとお墓にやって来ました。すると、その彼女たちに神のみ使いが現れて、主イエスは復活された、という知らせを最初に知らせたのです。しかも、その時、男性の弟子たちへの伝言もまた、彼女たちに託されました。「さあ、行って、弟子たちとペトロに伝えなさい。『あの方は…。』」

ここに、「ペトロ」の名前が出ています。でも、よく考えれば、ペトロも弟子のひとりです。わざわざ名前を語る必要もないはずですが。しかし、そこには大きな過ちをおかしてしまったペトロをもう一度ご自身のもとに立ち帰らせようと探し求める主イエスの愛が込められています。その主の愛の御心を、改めて思いめぐらしたいと思います。